

# 江東のひと

日本科学未来館  
科学コミュニケーション  
専門主任

はしもとゆうこ  
橋本裕子さん

## 先端科学をもっと身近なものに 市民の視点でわかりやすく伝える。

日本科学未来館で科学コミュニケーターとして活躍する橋本裕子さん。そもそも科学コミュニケーションとは、いったいどんな仕事なのでしょう？

「研究者や技術者と一般市民をつなぐ役目、と言った方がいいでしょうか。科学をわかりやすく伝えるだけでなく、その科学技術が社会の中でどう役に立つかマイナス面を含めて考え、展示やイベント、メディアの制作といった形で外部に発信していくのが仕事です。」

橋本さんは専門主任として、ライフ・サイエンスに関する展示の科学面での監修や、シ



### Profile

1982年九州大学理学部卒業。国立佐賀医科大学教務員、学術振興会特別研究員などを経て、2000年に民間企業のサイエンス・ライターに。2004年より日本科学未来館に勤務。「医療」の常設展示や「恋愛物語展」などの特別企画展、その他科学イベントや実験教室の企画と実施に携わる。また大学・企業との連携やアウトリーチ活動、大学講義や科学コミュニケーター研修の講師も担当。理学博士。

「うちの子は生後2カ月から保育園へ行き、私自身、一度も専業主婦になったことがないので、世の中のお母さんはみんな働いていると思っただけなんです(笑)。研究所は共働きの人が多く、私の上司(男性)もパートナーが働いていたので、その点ではとても働きやすかったですね。」

「夫婦で特に家事を分担す

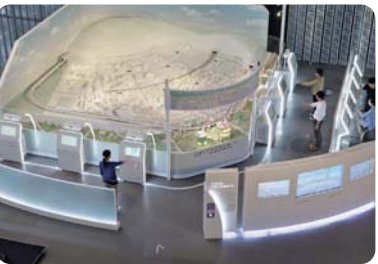
### 家事や育児と 研究生活を両立

橋本さんは大学卒業後、大学の研究機関などで20年近く、研究者として過ごしてきました。その間に大学時代の同級生と結婚。一男をもうけた後は、子育てをしながら仕事を続けてきました。

すし、放射線にしても自分や家族の健康に関わってくる問題です。こうした仕事を通じて、これからの科学技術のあり方を一人ひとりが考え、自分で判断できるようにサポートしていければ、と考えています。」



橋本さんが担当した「生命科学」のコーナー。生命がどのように成り立っているのかを、映像や模型などを使って分かりやすく紹介しています。



「2050年らしのかたち」



「アナグラのうた〜消えた博士と残された装置〜」



シンボル展示「Geo-Cosmos」と常設展示フロア

「特に土日は子どもと一緒に家族全員で外出しています。家事に関しても、私が忙しくなつてからは自分で料理を作るようになり、今では私よりも凝った料理を作りますよ(笑)。」

そんな橋本さんに、女性が仕事を続ける上で重要だと思うことを聞いてみると、「女性だけを特別扱いするのではなく、男性にとっても働きやすい職場環境であることが大切ですね。男性も早い時間に帰れば、家事や育児も分担でき、結果的に女性が働きやすくなると思います。」

### 男性も早く帰れる ような職場環境を

製薬会社に勤務する夫は現在、大阪に転勤中。大学生になった息子も京都で学生生活を送っています。「生活拠点はバラバラなんですけど、電話ではしょっちゅう話をしています。家計も含めて、何でも対等だったことが今でも仲良くしている理由かな。」と笑います。

**守ろう 人権** 平成23年度 人権週間行事  
**「トーク&コンサートと映画の集い」**

**日時** 12月8日(木)  
13時30分～17時20分(予定)

**会場** ティアラこうとう大ホール  
(住吉2-28-36)

※内容等詳細については、下記までお問い合わせください。  
 お問い合わせ先 江東区総務部人権推進課 TEL.03-3647-1164

**ご意見 ご感想をお聞かせください**

本誌の内容に対するご意見、ご感想、そのほか、江東区男女共同参画推進センターで実施しているパルカレッジ(旧女性大学)事業、学習講座事業などに関するご意見、ご要望をお待ちしております。

江東区男女共同参画推進センター  
 〒135-0011 江東区扇橋3-22-2  
 TEL.03-5683-0341  
 Eメール 055200@city.koto.lg.jp



子どもだけでなく、大人も楽しめる日本科学未来館。プラネタリウムや眺めのいいレストランもあり、「デート・スポットとしてもお勧めです」(橋本さん)  
 ●東京都江東区青海2-3-6 TEL.03-3570-9151(代表)  
 ●http://www.miraikan.jst.go.jp/